

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池田 誠
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	酒井 雅洋

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森活性化の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	643,000 (H26)	712,928 (H25)	629,163 (H26)	B
施策2	個性的な文化創造社会の形成	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H26)	11,609 (H25)	13,200 (H26)	B
施策3	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽堂入場者数	人	252,000 (H26)	250,272 (H25)	206,473 (H26)	C
施策4	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	115,000 (H26)	111,144 (H25)	94,229 (H26)	C

施策	施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題						課題に対する主な取り組み				評価	
	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
施策1	課題 兼六園周辺文化施設の活性化	再 兼六園周辺文化施設入館者数	人	643,000 (H26)	712,928 (H25)	629,163 (H26)	兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	13,000	12,550	A	拡大
							前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	一般県民	462	462	A	継続
							歴史博物館移動展費	一般県民	3,000	2,551	B	廃止
		美術館入館者数	人	437,000 (H26)	511,440 (H25)	409,127 (H26)	美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	17,316	16,250	C	拡大
施策2		石川四高記念文化交流館入館者数	人	142,000 (H26)	144,221 (H25)	167,912 (H26)	石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,137	15,550	A	継続
	課題 表現・鑑賞機会の充実	再 芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H26)	11,609 (H25)	13,200 (H26)	芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,209	A	継続
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	13,000	12,550	A	拡大
							いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	2,280	A	拡大
施策3		ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数	団体	45 (H27)	45 (H25)	— (H26)	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続
	課題1 音楽文化の創造・発信	再 音楽堂入場者数	人	256,000 (H26)	250,272 (H25)	206,473 (H26)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
							地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
							再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続
		ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	100,000 (H26)	103,322 (H25)	105,820 (H26)	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	43,000	40,000	A	拡大
課題2 音楽文化を担う人材の育成	いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	4,000 (H26)	3,480 (H25)	4,550 (H26)	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	国内外若手音楽家、一般県民	14,420	14,420	A	拡大	

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池田 誠
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	酒井 雅洋

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森活性化の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	643,000 (H26)	712,928 (H25)	629,163 (H26)	B
施策2	個性的な文化創造社会の形成	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H26)	11,609 (H25)	13,200 (H26)	B
施策3	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽堂入場者数	人	252,000 (H26)	250,272 (H25)	206,473 (H26)	C
施策4	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	115,000 (H26)	111,144 (H25)	94,229 (H26)	C

施策	施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
施策4	課題 伝統文化の継承と発展	再 音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	115,000 (H26)	111,144 (H25)	94,229 (H26)	伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	3,000	3,000	A	拡大	
							再 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	2,280	A	拡大	
							再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備費	一般県民	2,300	2,300	B	継続	
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	13,000	12,550	A	拡大	
							再 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	43,000	40,000	A	拡大	
							再 芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,209	A	継続	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化施設活性化事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	専門員 山川 恵子		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
 兼六園周辺文化の森の一層の賑わいを創出するため、各文化施設、関係機関等との連携に加え、兼六園・金沢城公園のイベントとも連携し、ミュージアムウィーク事業を拡充するとともに、新幹線開業時期にもイベントを実施することにより、施設の活性化を推進する。

- 事業の概要**
- 1 ミュージアムウィーク等施設連携事業の実施
 - (1) ミュージアムウィークの開催(各文化施設、本多の森公園)
各文化施設が連携するとともに、兼六園・金沢城公園のイベントとも連携し文化芸術イベントや協賛行事を開催
 - (2) 金沢芸妓の舞の実施(能楽堂別館)
文化施設鑑賞パスポート付き
 - (3) 文化の森スタンプラリーの開催
県及び金沢市の文化施設を対象
 - 2 新幹線開業時期に合わせたイベントの実施
 - (1) 金沢芸妓の舞&春のミュージアムコンサート
金沢芸妓の舞(能楽堂別館) ミュージアムコンサート(美術館)
 - (2) 特別企画展「色絵磁器の名陶 九谷焼」&ミュージアム茶碗まつり(美術館)
江戸から現代の九谷焼の名品の展示と九谷焼の即売会の開催
 - (3) 特別企画展「作家と酒」&レトロカフェ(石川四高記念文化交流館)
本県ゆかりの作家と酒にまつわるエピソード
 - 3 文化の森マップ、イベントガイドの発行
年2回作成
- 以上、交付先: 兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
- 4 「観能のタベ」の開催(2月、3月 能楽堂)
若手能楽師による能楽公演の実施
- 以上、交付先: いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
- 5 石川県・金沢市文化施設共通鑑賞パスポートの期間限定販売(10月(1ヶ月間))
ミュージアムウィーク事業の一環として実施し、各施設の周遊促進を図る。
対象施設: 県4施設(美術館、四高記念館、金沢港大野からくり記念館、銭屋五兵衛記念館)
市16施設(中村記念美術館、能楽美術館、鈴木大拙館など)
販売価格: 500円 有効期間: 2日間

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B	
課題	兼六園周辺文化施設の活性化						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	643,000	671,194	642,716	673,840	712,928	629,163	
施策	個性的な文化創造社会の形成				評価	B	
課題	表現・鑑賞機会の充実						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	13,000	12,787	13,081	12,679	11,609	13,200	
事業費							
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	7,400	8,000	9,500	8,400	13,000	
	決算	7,400	5,432	9,500	8,400	12,550	
一般	予算	7,400	8,000	9,500	8,400	13,000	
財源	決算	7,400	5,432	9,500	8,400	12,550	
事業費累計		42,600	48,032	57,532	65,932	78,482	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	歴史博物館がリニューアル工事のため休館中にも関わらず、多彩な文化イベントや新規事業の実施による集客効果もあり、ミュージアムウィークはこれまでの平均を大幅に上回る来場者数となった。各施設主催の展示等に加え、当事業によりミュージアムウィークなどのイベントを開催することにより、文化の森の賑わい創出や各館への集客に有効であった。 ミュージアムウィーク来場者数 H26: 72,864人 ※これまでの平均来場者数 48,258人					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	北陸新幹線金沢開業により、観光客の大幅増が見込まれること、また、「いしかわ文化振興条例」施行元年であることから、秋に開催していたミュージアムウィークを拡大し、四季折々に魅力あるイベントを開催するほか、兼六園・金沢城公園のイベント等とも連携し、兼六園周辺文化の森の一層の賑わい創出を図り、施設の活性化につなげる。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 成 者	組 織	県立美術館
		根拠法令 ・計画等					職・氏名	企画管理専門員 新保 勝也

事業の背景・目的

美術館リニューアルオープンに併せ「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品のすばらしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者増を図る。

事業の概要

1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数	年3回						
講座概要	第1回 金沢城二の丸御殿について	講師 日本建築学者 平井 聖氏	受講者数	150 名			
	第2回 最後の藩主慶寧と側室筆の出会い	講師 前石川県立歴史博物館長 徳田寿秋氏		160 名			
	第3回 高山右近と藩老横山家の交わり	講師 石川県金沢城調査研究所長 木越隆三		340 名			
講 師	歴史家、郷土史家等の著名人						
会 場	石川県立美術館ホール						
対 象 者	一 般						
定 員	各回200人						
特 典	講座参加者は、講座当日のコレクション展観覧料は団体料金						

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品のすばらしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

施策・課題の状況			
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進	評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化		
指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人
目標値	現状値		
平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
643,000	671,194	642,716	673,840
	平成25年度	平成26年度	
	712,928	629,163	

事業費						
(単位:千円)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	1,500	1,000	750	639	462
	決算	1,006	950	749	594	462
一般 財源	予算	1,500	1,000	750	639	462
	決算	1,006	950	749	594	462
事業費累計		3,250	4,200	4,949	5,543	6,005

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 左記の評価の理由 前田育徳会や尊経閣文庫の優れた文化財などを県民に知ってもらい講座の開催及びPR用のパンフレットを作成し、公民館や大学等教育機関にも幅広く配布することにより美術館の魅力アップに貢献した。年3回の講座の受講者数は延べ650人と前年の受講者数を110人上回る結果となった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 尊経閣文庫分館の魅力を高めることは美術館の集客アップにもつながることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実にも努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館資料展示費(移動展費)	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	歴史博物館		
成	職	氏名	総務課担当課長 西村 学		
者	電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511			

事業の背景・目的

- (1) リニューアル休館にあたり、県民サービス機関・教育機関・観光施設としての博物館の機能低下を補う。
- (2) 普段、地理的な事情から触れる機会の少ない加賀・能登地区で、名品・優品を紹介し、歴史博物館への関心を促す。
- (3) リニューアルに向けた情報を分かりやすく提示し、広報宣伝に努める。

事業の概要

平成25年度	平成26年度
<p>① 小松市立博物館 開催日:H25.7/20～8/25 (32日間・月曜休館) テーマ:大名行列がやってきた! 優品にみる加賀藩 主な展示品:「加賀藩大名行列図屏風」、 「白糸威二枚胴具足(しろいとおどしにまいどうぐそく)」、 大野弁吉作「エレキテル」、「無尽灯」 など約40点 関連企画: 外部講師による特別講演会 当館学芸員によるギャラリートーク 週末ワークショップ(甲冑・衣装体験、からくり人形) リニューアル広報パネル展示、CG映像 入館者数:901人</p> <p>② 七尾美術館 開催日:H25.9/21～10/27 (32日間・月曜等休館) テーマ、展示品、関連企画:小松と同様 入館者数:1,849人</p> <p>③ 四高記念文化交流館 開催日:H25.11/30～12/23 (24日間) テーマ:「モダン金沢と映画文化」 主な展示品:手動式映写機(大正期)、 卓上蓄音機、蛇腹写真機、 戦前・戦中映画ポスター、チラシ など 入館者数:525人</p>	<p>① 羽咋市歴史民俗資料館 開催日:H26.4月26日～5月25日 テーマ:大名行列がやってきた! 加賀藩の歴史と美術 主な展示品: 左に同じ 関連企画: 左に同じ なお、愛鳥週間に合わせ、トキ「能里」の剥製も展示 (5/10～5/18) 入館者数:716人</p> <p>② 加賀市美術館 開催日:H26.7.26～8月31日 テーマ:加賀藩御抱え絵師 佐々木泉景 主な展示品: 本館のコレクションから、大聖寺出身の佐々木 泉景にスポットを当てた展示とする。 入館者数:902人</p> <p>※佐々木泉景(1773～1848)は、江戸時代中期 から後期にかけて活躍した狩野派の絵師で、京都 に上がり狩野派の鶴沢探索・探泉に師事して画法 を習得し郷里に帰った。加賀藩の依頼で作画を 行ったが、文化6年(1809)、金沢城二ノ丸御殿 障壁画制作に参画し、他の絵師より抜きん出て数 多くの絵を手掛けた。その後、御抱え絵師に取り 立てられ、また多くの逸材を育てた。</p> <p>③ 金沢市内(公共施設) リニューアルPR展</p>

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	643,000	671,194	642,716	673,840	712,928	629,163

事業費					
(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算			3,000	3,000
	決算			2,250	2,551
一般	予算			3,000	3,000
財源	決算			2,250	2,551
事業費累計		0	0	2,250	4,801

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	①羽咋市歴史民俗資料館では、左記のタイトルで30日間開催し、716人の入館者があった。②の加賀市美術館では左記タイトルで32日間、入館者は902人であった。また、③の金沢市内公共施設では、しいのき迎賓館で9月9日～9月15日の7日間、PRパネル展「れきはく」は平成27年春リニューアルオープン!」を開催し、県庁19階ロビーにおいても、10月20日～30日の11日間、同タイトルでPR展を行った。いずれの会場においても、展示品はもとより、リニューアルのチラシやイメージ映像を放映し、効果的なPR実施ができた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	廃止	当事業は、リニューアル工事期間中における館のPR強化を目的として平成25年度及び26年度に限定的に実施したものであり、加賀・能登・金沢の3地区におけるリニューアルオープンの周知に一定の成果を得たと評価している。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作成者 組 織 美術館
	根拠法令		職・氏名 企画管理専門員 新保 勝也
	計画等		電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510

事業の背景・目的
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマにもとづく内外の作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。

事業の概要

1 「新紀元 -革新の視座-」

①会期 平成26年4月20日～5月18日 29日間

②展示内容

「伝統と革新」をテーマに、既成概念を打ち破り、新たな表現世界を求めて創作を続ける石川ゆかりの作家による、絵画・造形作品展で、石川美術の重層性を提示することを目的とする。空間造形作家の加賀谷武、鉛筆によるリアリズムを極める木下晋、陶による造形に挑む久世建二、カラフルな線と色面で現代の大首絵を描く庄田常章、金属造形の先駆者で文化勲章受章者・日本芸術院会員であった蓮田修吾郎の5作家を取りあげる。確かな技術に裏付けされた各作家の創作の軌跡を、1作家1室で紹介する。

2 「工芸王国の実力」

①会期 平成26年9月27日～10月26日 30日間

②展示内容

石川県立美術館は、昭和34年の旧館開館以来、石川県の美術文化の継承と発展を担い、活発な美術館活動を推進してきた。その50年を超える活動のなかで、優れた美術作品の収集を積極的に行い、今日では3000点を上回るコレクションに至っている。とりわけ、藩政時代より伝統技術が受け継がれてきた工芸の分野においては、陶芸、漆工、染織、金工、木竹工など、あらゆるジャンルにわたって高い水準をもつ内容となっている。
 本展は、近現代工芸のコレクション約1000点と、寄託を受けている作品などの中から優品を選びすぎり、初公開の作品も交えて125点を展示する。明治期から今日に至る作品群を、制作された時代にそって展示構成し、これまで培ってきた石川の工芸技術の粋をご覧いただくとともに、作品の個性の美の輝きを感じ取っていただくものである。

3 「高山右近とその時代」

①会期 平成27年1月4日～2月8日 36日間

②展示内容

高山右近(1552年～1615年)は織田信長、豊臣秀吉に仕え、武将としての傑出した能力は、秀吉をはじめ諸将から高く評価された。また、千利休の高弟として茶人としても活躍し、同時にキリスト教布教にも尽力したが、秀吉のキリシタン禁令の発令とともに、棄教を迫られるもそれを拒否し、領地を召し上げられた。しかし翌年、右近の才を惜しむ加賀藩祖・前田利家により金沢に迎えられ、利家の死後は加賀藩二代藩主・利長により家老扱いを受け、金沢城修築、高岡城修築などに手腕を発揮した。また利休高弟として茶の湯を広める一方、追放された内藤如庵、宇喜多休閑などのキリシタン武将を前田家客将に世話するなど、1614年、徳川家康のキリシタン禁令によるマニラへの追放まで、ささやかながら布教活動を続けた。本展は、2015年2月4日が高山右近没後400年の節目に当たることから、右近の生涯と人物像を、右近が生きた時代背景から再認識することを趣旨として開催するものである。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	目標値			現状値	単位
						人
	目標値	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	437,000	390,711	360,740	408,642	511,440	409,127

事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	17,076	14,291	20,189	31,528	17,316
	決算	16,556	14,277	20,189	31,140	16,250
一般財源	予算	6,276	9,291	8,182	6,144	6,144
	決算	5,737	9,274	8,035	4,073	6,909
事業費累計		16,556	30,833	51,022	82,162	98,412

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	日本美術の流れの上で評価される内外の美術品及び石川県に關係ある優れた美術品や貴重な文化財を鑑賞できる機会を提供することは、県民に芸術・文化の素晴らしさを伝えるとともに豊かな心を育むうえでも有意義なことである。 H26美術館入館者目標 437,000人 実績 409,127人 入館者数が減となったのは、前年度(開館30周年)の企画展である「国宝薬師寺展」、「俵屋宗達と琳派展」など比較的大規模な展覧会が多く、入場者数も非常に好調であったが、平成26年度企画展はこれらに比べ、開催期間も短かったこともあり、入館者数が低調であったことが主な要因と考えられる。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県開とのあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、美術館のより一層の入館者増を目指す。 さらに、新幹線開業を機に、これまでない規模で加賀藩歴代藩主が収集した国宝や重要文化財などの名宝が一同に会する展覧会を開催するなど、観光客が多い時期に大規模な企画展を開催することとする。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組織	石川四高記念文化交流館		
成職・氏名	専門員 橋本 秀幸		
者電話番号	076 - 262 - 5464		

事業の背景・目的
 石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々にご利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

1 石川四高記念館
 ・施設の概要
 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置

・主な事業
 常設展示(4室)
 企画展の実施
 赤レンガ建物展 (4月～3月)
 小中学校絵画展
 三文豪館とのスタンプラリー
 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など

2 石川近代文学館
 ・施設の概要
 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館
 (公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)

・主な事業
 常設展示(8室)
 企画展の実施
 「妖怪えほん原画展」 (4/19～8/24)
 妖怪えほんの原画を一同に並べるほか妖怪関連資料を展示する「目に楽しい」企画展とし、幅広い年齢層が楽しめるものとする。
 「闘う男の文学展」 (9/20～12/7)
 戦国以前や明治以降の男性主人公に注目し、広く 石川ゆかりの「熱い男像」をアピールする。若年層向けに石川の武将がキャラクターとして登場するゲームの紹介や主人公をイラストで表現
 「彷徨の作家 島田清次郎」 (1/10～3/22)
 大正時代に「地上」を書いた島田清次郎という旧美川町出身者の文人にスポットを当てて、その人物像や世界観を他の資料を交えて広く紹介したい。
 ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	142,000	134,596	132,380	134,003	144,221	167,912

事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	15,476	15,322	15,754	15,289	16,137
	決算	14,946	14,640	15,511	15,133	15,550
一般	予算	12,852	12,354	12,354	12,455	12,517
財源	決算	12,408	12,353	12,851	13,128	13,195
	事業費累計	46,088	60,728	76,239	91,372	106,922

評価		
	項目	評価
	左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	<p>石川四高記念館においては、全国赤レンガ建物展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、全体の利用者も前年度を上回り、金沢中心部における賑わいの創出に貢献した。</p> <p>H25実績:144, 221人 H26実績:167, 912人</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	<p>企画展の実施や機をとらえた常設展の展示替えなどを行い館の魅力を高めていくほか、県内外の小中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 芸術鑑賞推進事業費負担金	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 杉森 蓉子		
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847			

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(公社)日本児童青少年演劇協会に委託 県内で9公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉芙勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	13,000	12,787	13,199	12,679	11,609	13,200	
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	C
課題	伝統文化の継承と発展						
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	115,000	116,571	102,617	108,960	111,144	94,229	
事業費							
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	4,521	4,521	4,231	4,231	4,231	
	決算	4,371	4,521	4,187	4,165	4,209	
一般	予算	4,521	4,521	4,231	4,231	4,231	
	決算	4,371	4,521	4,187	4,165	4,209	
事業費累計		276,260	280,781	284,968	289,133	293,342	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	県内の子どもたちにオーケストラや古典芸能など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐくむことに寄与している。 H26鑑賞者数:8,670人(H25:7,584人)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	主事 小川 紘加			
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3848			

事業の背景・目的
 定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要

内容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 日時 平成26年7月5日～8月30日 毎週土曜日
 午後6時30分～午後8時30分
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
 会場 石川県立能楽堂
 主催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
 対象 一般
 入場料 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	13,000	12,787	13,199	12,679	11,609	13,200	
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	C
課題	伝統文化の継承と発展						
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	115,000	116,571	102,617	108,960	111,144	94,229	
事業費							
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	4,200	4,200	3,500	3,500	3,500	
	決算	4,200	1,051	3,500	2,994	2,280	
一般	予算	4,200	4,200	3,500	3,500	3,500	
	決算	4,200	1,051	3,500	2,994	2,280	
事業費累計		60,300	61,351	64,851	67,845	70,125	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。 観能の夕べ入場者数 H26:2,801人(H25:2,441人)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるために重要であることから、今後「観能の夕べ」の上演回数を増やすことで、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	文化振興課
成	職・氏名	主事 坪川 拓実
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県の内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

事業の概要

- 1 実施主体 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(一財)石川県芸術文化協会
- 2 実施時期 平成27年秋 (平成26年度は開催準備年度)
- 3 会場 県下一円(県立音楽堂、赤羽ホールを中心とする公共ホール)
- 4 事業内容
 - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
 - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
 - (3) 芸術文化団体による公演
 - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業、ただし財政的な支援はなし)
- 5 参加団体数 約40団体
- 6 事業費 負担金2,300千円
(交付先:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備委員会)

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
	指標	ビエンナーレいしかわ参加団体者数				単位	団体
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	45	準備年度	44	準備年度	45	準備年度	
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進					評価	C
課題	音楽文化の創造・発信						
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	256,000	272,940	238,543	265,158	250,272	206,473	
事業費							
(単位:千円)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300	
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300	
一般財源	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300	
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300	
事業費累計		340,100	394,100	396,400	450,400	452,700	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。また、開催毎に事業数は増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県の様々なジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 乾 康祐
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大

- 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(14事業)
 - ・マリンスキー歌劇場管弦楽団演奏会
 - ・エッセン市立歌劇場バレエ団公演
 - ・ヴァイオリンリサイタル
 - ・ファンタスティック・クラシカル・コンサート
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2) 邦楽ホール(9事業)
 - ・音楽堂寄席
 - ・松竹大歌舞伎
 - ・干支の芸能
 - ・ふれあい伝統芸能ランド 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・午後の音楽散歩
 - ・室内楽コンサート
 - ・音楽堂アワー

計 26事業

3 補助金額
15,000千円

4 総事業費
189,100千円

うち県補助金	15,000千円
文化振興基金助成	50,000千円
文化庁助成	34,000千円
入場料・協賛金	90,100千円

施策・課題の状況						
施策課題	指標	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽文化の創造・発信	音楽堂入場者数	評価	C
	目標値	現状値			単位	人
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	256,000	272,940	238,543	265,158	250,272	206,473

事業費						
(単位:千円)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	25,420	21,196	17,817	15,847	15,000
	決算	25,420	21,196	17,817	15,847	15,000
財源	予算	10,420	21,196	17,817	15,847	15,000
	決算	10,420	21,196	17,817	15,847	15,000
事業費累計		55,020	76,216	94,033	109,880	124,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	音楽堂入場者数は、学会利用者の減少に伴い、減(▲43,799人)となった。(北陸新幹線金沢開業を前にした手控えと思われる。) しかしながら、本事業においては、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施し、昨年度から1万人増の44,328人の入場者があり、石川の音楽文化の振興に一定の効果があった。 (入場者数 H25年度:33,868人 H26年度:44,328人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、且つ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組織	文化振興課				
成職・氏名	専門員 乾 康祐				
者電話番号	076	-	225	-	1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:権代 敦彦)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他のオーケストラとの共演、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。
・バレエ「くるみ割り人形」
日時 平成26年12月6日 会場 石川県立音楽堂

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
オーディション:弦楽器部門 審査委員:井上音楽監督 他
演奏会:H26.5.18(H25選考:ピアノ部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況							
施策課題	音楽文化の創造・発信・交流の促進					評価	C
	音楽文化の創造・発信						
	指標		音楽堂入場者数			単位	人
	目標値		現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	256,000	272,940	238,543	265,158	250,272	206,473	

事業費						
(単位:千円)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,000
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,000
一般財源	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,000
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,000
事業費累計		283,000	293,700	304,400	315,100	325,100

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	音楽堂入場者数は、学会利用者の減少に伴い、減(▲43,799人)となった。(北陸新幹線金沢開業を前にした手控えと思われる。)しかしながら、本事業において、ジュニア・オーケストラおよびオーケストラ・アンサンブル金沢合唱団を、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭やOEK定期公演へ出演出来るレベルにまで育成し、本県の音楽文化を担う次世代層のレベル向上に貢献するとともに、オーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による実践講習会等を通じて、音楽文化の普及にも貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県民がオーケストラへの親しみを深める事業や本県の音楽文化を担う次世代層の育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図るうえで、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫を凝らしながら取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 平井 亜紀代		
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3856			

事業の背景・目的
 フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」は、2008年から金沢でも開催され、6年目となった2013年は、全国から10万人以上の観客を集め、音楽愛好家の拡大だけでなく、交流人口の拡大や石川の音楽文化の発信といった面でも着実に成果をあげてきている。
 また、2013年の開催では、街なかでの公演や加賀・能登地域での公演を充実させ、県内全体で音楽祭を盛り上げたところである。1年半を切った北陸新幹線金沢開業を見据えながら、今後も、世界的な音楽祭としてのブランド力を活かし、この音楽祭を発展させていく必要があり、2014年も引き続き、街なかや加賀・能登地域での公演の充実を図りながら、更に交流人口の拡大や地域の活性化につながる音楽祭として定着させていく。

- 事業の概要**
- 1 (1) 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2014
 - (2) 開催時期:平成26年4月29日(火・祝)～5月6日(火・振休) 8日間
 - (3) 会場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
 - (4) 主催:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会
 会長 前田 利祐 (第18代前田家当主)
 - (5) 内容:オーケストラ公演、合唱、室内楽公演、吹奏楽 ほか
 183公演(有料:62公演、無料:121公演)
 - (6) 主な出演者:【国内】
 オーケストラ・アンサンブル金沢、北陸三県をはじめとする全国の演奏団体ほか
 【国外】
 タタルスタン国立交響楽団(ロシア)、ルイザ・アルブレヒトヴァ(チェコ)、
 マテ・カマラス(ハンガリー)ほか
 - (7) 入場料:500円～2,500円

2 負担金額 43,000千円

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	C
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	100,000	108,916	118,355	104,771	103,322	105,820
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実				評価	C
課題	伝統文化の継承と発展					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・音楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	115,000	116,571	102,617	108,960	111,144	94,229

事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	10,000	13,000	17,976	43,000	43,000
	決算	10,000	13,000	17,976	43,000	40,000
	一般	10,000	13,000	17,976	13,000	13,000
	財源	10,000	13,000	17,976	13,000	13,000
	事業費累計	15,000	28,000	45,976	88,976	128,976

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 一流の演奏を低料金で提供し、0歳から入場できるコンサートを設置するなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるクラシック音楽祭として、広く県民に周知され親しまれており、音楽ファンの拡大や石川からの音楽文化の発信だけでなく、交流人口の拡大や地域の賑わいの創出にも寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大 本音楽祭は、世界的な音楽祭としてのブランド力と、誰もが足を運べる気軽さから、来場者数が10万人を超えるなど、ゴールデンウィークにおけるイベントとして定着している。H27年は北陸新幹線の金沢開業直後の開催であり、首都圏からの著名なオーケストラの招へいや、県内名勝地でのコンサート等により、本県の音楽文化の県内外への発信や、更なる交流人口の拡大につなげたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令・計画等				成 職・氏名	主事 平井 亜紀代
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3856

事業の背景・目的
 国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 事業名 2014いしかわミュージックアカデミー
 - 2 期 間 平成26年8月17日(日)～26日(火) 10日間
 - 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
 - 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲
 - 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
 - (2) コンサート部門
 - ① IMA講師チェンバーコンサート:IMA講師とOEKメンバーの共演
 - ② IMAライジングスターコンサート:過去のIMA音楽賞受賞者など若手演奏家によるコンサート
 - ③ ミニコンサート:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の学校、病院等)
 - (3) フェロシップ制度
奨学生:優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進	評価	C			
課題	音楽文化を担う人材の育成					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数				
	目標値	現状値				
	平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	4,000	3,938	4,598	4,984	3,480	4,550

事業費						
(単位:千円)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算	15,800	15,175	14,420	14,420	14,420
	決算	15,800	15,175	14,420	14,420	14,420
一般	予算	15,800	15,175	14,420	14,420	14,420
財源	決算	15,800	15,175	14,420	14,420	14,420
事業費累計		373,400	388,575	402,995	417,415	431,835

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、アカデミー出身者で、世界を舞台に活躍している演奏家を招いてのコンサート開催や、受講生レッスンの一般公開、ミニコンサート開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 鑑賞者数 H26:4,451人H25:3,372人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れており、このような効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち事業を継続していくとともに、県内の受講生をさらに増やすため、県内の小中学生向けの体験レッスンなどを実施していきたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 杉森 蓉子		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
 県民や観光客が、藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力ともなっている金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会の充実を図るとともに、芸の披露の場を創出することにより、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ②実施期間等
平成26年10月～平成27年3月の実施期間内に年21回開催(3茶屋街×7回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況					
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実			評価	C
課題	伝統文化の継承と発展				
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人	
目標値	現状値				
平成26年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
115,000	116,571	102,617	108,960	111,144	94,229

事業費						
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	予算				3,000	3,000
	決算				3,000	3,000
一般財源	予算				3,000	3,000
	決算				3,000	3,000
事業費累計			0	0	3,000	6,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「金沢芸妓の舞」は、藩政期から受け継がれてきた金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会を県民や県外からの観光客に提供しているほか、公演回数を確保することにより金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 金沢芸妓の舞入場者数 H26:1,054人(H25:870人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	多くの県民や県外からの観光客に、茶屋文化に気軽に親しんでもらい、芸妓文化を保存・継承し、さらに磨きをかけていくことは大変重要であることから、今後、音楽堂における「金沢芸妓の舞」の上演回数を増やすことで、芸妓文化の一層の伝承、発展を図っていく。